

H28.6.1.

日刊工業新聞 29面

拓く 研究者

122

(30歳)

古郷 敦史 氏

大学院 工学研究科 博士 桐蔭大学 大学院 工学研究科 博士



効率は約20%。「まだ者が恐竜を復活させることまだ伸びし」とに衝撃を受けた。研究るはある」の世界を志し、2005と変換効率の向上と、入学した。同太陽電池 07年に進んだ同大工学の課題であ 部応用化学科の実験で、る耐久性の 銅イオンの緑色やニッケ低さの克服 ルの青色など化学物質がも安く、耐久性に優れるに向けて日 持つきれいな色に魅力を使 金を使用した点が評価さる。 界に興味を持った。09年 学生に贈られる賞「ゴーからは東京大学生産技術 ルド・サイエンティスト 研究所で「金属ナノ粒 ・プライズ」を世界で初

基礎研究の成果を実用化に結びつけるため、14年からは色素増感太陽電池の第一人者である桐蔭 横浜大学大学院工学研究 科の宮坂力教授の研究室で開発に没頭。「科学技 術で世界の人に貢献したい」と目を輝かせる。

興味は剣道。4段の腕前を生かし、休日には小学生に剣道を教える。「研究中で細かい部分を観察すること、剣道で相手の動きを注視するは同じ」と、研究活動に役立てようとする意識を持ち続けている。

樹脂製太陽電池改善に力

(福沢尚季)
(水曜日に掲載)

次世代の太陽電池として注目されているペロブスカイト太陽電池。桐蔭 フィルムを使った同太陽電池の開発を手がけてお科の古郷敦史博士研究員が「世界中で研究されて変換効率を達成した。いる分野で、競争相手が「研究は難しいが、誰も多い」と指摘するよう やっていない成果が出せに、世界全体では1日に るとうれしい」と、研究10本程度の成果が報告さ 者としてのやりがいを感じれる。研究者にとって は、まさに「激戦地」と ガラス基板を用いた一

TYPE OF INDUSTRY



科学技術・大学

